

科目名 (英)	コンピューター演習 (Computer Seminar)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	ブレーンスタッフコンサルタント	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 2時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・構成】								
滋慶学園グループのコンピュータ関連企業に所属しており、複数の専門学校にて学生へのPC講義や教職員へのPC研修を実施している。 <学習内容>・コンピュータネットワーク環境の適切な利用を学ぶ ・Wordで複合文書を作成する・Excelの基本操作やデータベース、効果的なグラフの作成方法を学ぶ・メールマナーを学ぶ								
【到達目標】								
-新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる -Wordを利用し、複合文書の作成ができる -Excelを利用し、表計算や表、グラフの作成ができる -マナーを理解し、メールを送信できる								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、 オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				次回講義までに不明な操作をe-learning(インターネット上のテキスト)で確認しておく				
回	授業概要			回	授業概要			
	【授業単元】 CCT入門1 【授業形態】 演習 【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる				【授業単元】 メールマナー 【授業形態】 演習 【到達目標】 受け取り手に好印象を与えるメールのマナーを知り、メール機能を使いこなすことができる			
	【授業単元】 CCT入門2 【授業形態】 演習 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる				【授業単元】 Excel基礎1 【授業形態】 演習 【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる			
	【授業単元】 CCT入門4 【授業形態】 演習 【到達目標】 Officeの基本操作ができる				【授業単元】 Excel基礎2 【授業形態】 演習 【到達目標】 関数を駆使した資料を作成できる			
	【授業単元】 Word基礎1 【授業形態】 演習 【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる				【授業単元】 Excel基礎3 【授業形態】 演習 【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる			
	【授業単元】 Word基礎2 【授業形態】 演習 【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる				【授業単元】 Excel応用A(データベース) 【授業形態】 演習 【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる			
	【授業単元】 Word基礎3 【授業形態】 演習 【到達目標】 表を駆使した文書を作ることができる				【授業単元】 Excel試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 Excel基礎で習ったことを実践できる			
	【授業単元】 Word試験対策 【授業形態】 演習 【到達目標】 Word基礎で習ったことを実践できる				【授業単元】 Excel試験、解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 前期定期試験 Excel資料作成			
8	【授業単元】 Word中間試験、解答解説 【授業形態】 演習 【到達目標】 前期中間試験 Word資料作成				【評価方法について】 評価は実技試験で行い、 授業内で説明した機能の理解、操作の定着度を確認する。 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
	【特記事項】							

科目名 (英)	倫理学	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	大友 一夫
	(Ethics)						前期
学科・コース	視能訓練士科	授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	月曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】							
最近、倫理の範疇は急変しているおり、特に、医療従事者にとって正しい倫理観を認識することの重要性が大きな課題となっている。本講座は、化学関連企業本講座は「人は如何に生きるべきか」「人の生き方と規則の限界」などのヒトにかかる学問であるが、医療現場における患者との関係(意識・個性・人格・社会的地位)を熟知することによる活動指針としての役割がある。従って、患者となった人の心理的で哲学的な接遇手段を学ぶべきものと自覚することが大切である。での対人環境の経験を通しての学理と医療系専門学校での教鞭を通して、特に、医療人としての必須的な社会理念学を履修する事を目的とする。							
【到達目標】							
医師を含めた医療従事者が患者と接遇した場合の心理的な変化を的確に処理できるような行動ができることを目的とする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
プリント配布							
回	授業概要	回	授業概要				
1	<p>【授業単元】序論</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)倫理とは (2)倫理と道徳の関係 (3)生命倫理と医療倫理の比較 	9	<p>【授業単元】終末期の医療と倫理</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)ターミナルケアとしての課題 (2)脳死判断と臓器移植問題 (3)死生学と死生觀 				
2	<p>【授業単元】医療現場と倫理的な判断</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)医療倫理と处置 (2)医療倫理の行動と限界 (3)医学的な判断と处置 	10	<p>【授業単元】先端医療技術の光と影</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)医学研究の倫理と限界 (2)ヒト組織細胞の増殖と医療倫理 (3)再生医療とクローン技術の危険性 				
3	<p>【授業単元】医療活動と人間心理の限界</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)医師と患者の意識と限界 (2)医師と家族との葛藤 (3)看護師と倫理観 	11	<p>【授業単元】医療社会と倫理水準の平滑化</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)医療と社会倫理観の整合性 (2)医療情報と個人の保護 (3)医療診断と情報の開示 				
4	<p>【授業単元】医療と医師モデルの理想像と現実</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)工学的な診断と处置と課題 (2)聖職的な概念と弊害 (3)同士的な思想と離合 	12	<p>【授業単元】疫学研究と倫理</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)疫学領域の開示と情報 (2)倫理としての疫学研究の限界 (3)疫学の開示と範囲 				
5	<p>【授業単元】プライバシーと守秘義務</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)守秘義務の倫理と限界 (2)患者と家族の相反思想と解決策 (3)プライバシーの本質的な行動 	13	<p>【授業単元】遺伝子操作技術と医療倫理</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)遺伝子操作の利点と欠点 (2)iPS細胞の研究と倫理観 (3)遺伝子組み換え操作の特徴と将来性 				
6	<p>【授業単元】高齢者の医療と倫理観</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)年代別の思想と倫理変化 (2)高齢者の障害救済策と倫理行動 (3)高齢者と人格的な偏見と心理変化 	14	<p>【授業単元】医療と倫理の接点と乖離</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)医療と人間学 (2)医療情報の伝達と許容範囲 (3)人間の幸福観と倫理 				
7	<p>【授業単元】出生に関わる倫理</p> <p>【授業形態】PP授業</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)出生の本質的な位置づけ (2)人工妊娠技術と中絶行為の倫理 (3)出生前診断等の選択と課題 	15	<p>【授業単元】定期試験の実施と評価</p> <p>【授業形態】定期試験問題用紙</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)定期試験の実施(60点満点)による評価 ①試験は100点満点で実施し、これを60点に按分する 				
8	<p>【授業単元】中間試験の実施と評価</p> <p>【授業形態】中間試験問題用紙</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)中間試験の実施(40点満点)による評価 ①試験は100点満点で実施し、これを40点に按分する。 		<p>【評価について】</p> <p>本講座は、中間試験と定期試験の合計点と小論文の採点によって評価。</p>				
【特記事項】							

科目名 (英)	社会福祉学 (Social Welfare)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	藏野秀文	
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日	
【担当教員紹介と授業の学習内容・構え】								
社会福祉士として高齢者を中心に長年支援に携わってきた教員が、地域における医療と介護の連携に必要な社会福祉の基礎を学びます。病気や障害、貧困など、様々な要因で社会的支援を必要とする人たち(要支援者)の生きる権利を守るために、多くの専門機関や専門職があり、視能訓練士もそのひとつといえます。要支援者の多くは支援が必要となった要因が複合的に積み重なっており、様々な専門職が同時に関わっていくことで課題解決を目指すことになります。このとき各専門職がバラバラに支援を展開すると、とても効率が悪いため、連携して支援することを求められます。その際、どのような考え方に基づいて、どの制度を活用し、どこの誰と連携をとることが、よりスムーズに支援につながるのか、各専門職が理解していることが重要になってきます。本科目は、課題を見つめたり、連携を求めるとき、自身の専門職としての力を十分に発揮するために必要な知識となることを念頭に取り組んでください。								
【到達目標】								
・社会福祉の基本理念や制度、社会福祉の歴史について理解する。 ・現代社会と社会福祉の関連性、医療・福祉政策のあり方について理解する。 ・支援者の連携に必要な基本的な考え方を身につける。								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』講談社				予め教科書を読み、予習してくることが望ましい。 社会福祉制度は常に変化していくので、ニュースや新聞などに触れて、世の中の動きに关心を持つことが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】「社会福祉」の捉え方を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・「社会福祉」の定義を理解する。 ・「社会保障」という用語の意味を理解する。 ・日本における「社会福祉」の位置づけを理解する。	9	【授業単元】子ども家庭福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・少子化対策について理解する。 ・子どもにかかわる課題と対策について理解する					
2	【授業単元】社会福祉の基本理念と概念を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・生存権について理解する。 ・ノーマライゼーションの考え方を理解する。	10	【授業単元】障害者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・障害者を取り巻く状況を理解する。 ・障害者にかかわる法制度を理解する。					
3	【授業単元】社会福祉の基本理念と概念を理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・リハビリテーションやエンパワメントなどの理念について理解する。 ・国際生活機能分類(ICF)について理解する。	11	【授業単元】障害者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・障害福祉サービスを理解する。 ・視覚障害者に対する障害福祉サービスを理解する。					
4	【授業単元】社会福祉創世の歴史について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・第2次世界大戦までの社会福祉の発展の過程を理解する。	12	【授業単元】高齢者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・高齢者を取り巻く状況を理解する。 ・高齢者にかかわる法制度を理解する。 ・介護保険制度を理解する。					
5	【授業単元】社会福祉の発展過程について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・第2次世界大戦後から福祉六法体制の確立までの社会福祉の発展の過程を理解する。	13	【授業単元】低所得者福祉の概要について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・低所得者を取り巻く状況を理解する。 ・生活保護制度を理解する。					
6	【授業単元】現在の社会福祉の動向について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・福祉見直し論から社会福祉基礎構造改革までの社会福祉の発展の過程を理解する。 ・社会福祉基礎構造改革以後の社会福祉の動向を理解する。 ・現在の社会福祉の動向を理解する。	14	【授業単元】保健医療福祉従事者期待される役割について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・医療保険制度の概要を理解する。 ・医療機関の機能を理解する。 ・地域医療連携について理解する。 ・多職種連携の重要性を理解する。					
7	【授業単元】日本の社会保障制度について理解する。 【授業形態】講義 【到達目標】 ・社会保障制度の体系を理解する。 ・社会保険の概要を理解する。	15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 ・前後半講義の内容を総括する。					
8	【授業単元】中間試験 【授業形態】 【到達目標】 ・前半講義の内容を総括する。		【評価方法について】 授業で確認した、知識の理解や定着度を確認する。 中間試験（40点満点） 実施方法：5択マークシート方式 定期試験（60点満点） 実施方法：5択マークシート方式 合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】								
授業毎にレジュメを配布しますが、教科書の図表を随時利用するので、毎回持参してください。								

科目名 (英)	心理学(発達・臨床) (Psychology)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	長田 美穂
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 4時限
学科・専攻	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
精神保健福祉士・公認心理師・保育士の国家資格を持ち、心理学分野の論文で博士(学術)を取得している。臨床発達心理学について研究し、現在はスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを兼務しており、専門学校・大学での講師経験を持つ教員が「人を理解し、アセスメントすること」とはどういうことかという観点から講義を展開していく。発達とは、年齢と学習の相互作用によって起こる現象であり、人間が一生に渡って起こる変化として捉えることが重要である。授業では積極的な意見を出し合うグループワークを行なうながら理解を深めていくことが望まれる。							
【到達目標】							
・代表的な発達の流れを理解する。 ・成育歴からアセスメントできるようにする。 ・発達障害の特性と対応について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教員作成の資料を使用し、適宜配布する。				授業後は、内容を整理し、ノートにまとめる。毎回の授業は、自分や周りの人の人生に重ねながら考えてみる。			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】発達の概念 【授業形態】講義 【到達目標】 発達とは何かを説明できる。 人間の発達の特徴を列挙できる。	9	【授業単元】自己・他者認知の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 反抗期の意味について説明できる。 共感能力について説明できる。				
2	【授業単元】フロイト・ピアジェの発達段階 【授業形態】講義 【到達目標】 発達段階名を順に列挙し説明できる。	10	【授業単元】自我・コミュニケーションの発達 【授業形態】講義 【到達目標】 自我とは何かを説明できる。 言葉の発達からコミュニケーションの確立について説明できる。				
3	【授業単元】エリクソンの発達段階 【授業形態】講義 【到達目標】 各発達段階の発達課題を列挙できる。	11	【授業単元】知能の発達と学習 【授業形態】講義 【到達目標】 記憶と学習の関連について説明できる。				
4	【授業単元】乳幼児の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 言葉・遊び・生活の発達について説明できる。	12	【授業単元】適応と環境 【授業形態】講義 【到達目標】 適応とは何かについて説明できる。 環境への適応のスキルについて説明できる。				
5	【授業単元】児童期の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 児童期の特徴を説明できる。 小学校で起こる様々な問題について説明できる。	13	【授業単元】発達上生じる問題1 【授業形態】講義 【到達目標】 発達障害についてその特徴や対応について説明できる。				
6	【授業単元】青年期の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 青年期の変化と問題について列挙できる。 アイデンティティとは何かを説明できる。	14	【授業単元】発達上生じる問題2 【授業形態】講義 【到達目標】 発達障害の二次障害について説明できる。				
7	【授業単元】成人期・老年期の発達 【授業形態】講義 【到達目標】 成人期・老年期の変化と問題について列挙できる。	15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 授業内容全体の理解度について確認し、復習に生かす。				
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 7回目までの授業内容の理解度について確認する。	【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は、8回目で行う中間試験(40点)と、15回目で行う定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。尚、受講態度、グループワークでの提出物に關しても考慮する。評価は、学期規定に準ずる。					
【特記事項】							
最初にレクチャーをして、その後グループワークを行い理解を深める。クラスの意見・考えについては発表を通じて知り、自分以外の視点に気付くことにより、深く理解できるようにする。							

科目名 (英)	人体の構造と機能 I (Structure and Function of the Human Body I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	脇 雅子
学科・コース	視能訓練士科	授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 医学博士であり、長年医学部での研究と教育に携わる講師が授業を担当する。視能訓練士として必要な医学的、科学的知識を習得し、将来的に現場で生かせるようにする。							
【到達目標】 人体を構成する器官の構造と機能を理解し、医学的知識を習得する。また、将来的に現場で生かせるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】 系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)		【授業外における学習】 毎回復習し、自発的に学習する。					
回		回		授業概要			
1	【授業単元】細胞、組織 【授業形態】講義 【到達目標】生物学で学んだ細部、組織を確認する	9		【授業単元】体液の調節と尿の生成 【授業形態】講義 【到達目標】腎臓の構造、機能、尿の生成を理解する			
2	【授業単元】栄養の消化と吸收 【授業形態】講義 【到達目標】消化管の構造と機能を理解する	10		【授業単元】内蔵機能の調節 内分泌系 【授業形態】講義 【到達目標】ホルモンによる調節を理解する			
3	【授業単元】栄養の消化と吸收 【授業形態】講義 【到達目標】腸、脾臓、肝臓などの構造と機能を理解する	11		【授業単元】情報の需要と処理 神経系 【授業形態】講義 【到達目標】神経系の構造と機能を理解する			
4	【授業単元】呼吸と血液の循環 【授業形態】講義 【到達目標】呼吸器の構造、機能を理解する	12		【授業単元】情報の需要と処理 神経系 感覚器系 【授業形態】講義 【到達目標】神経系、感覚器系を理解する			
5	【授業単元】呼吸と血液の働き 【授業形態】授業形態 【到達目標】呼吸と血液の働きを理解する	13		外部環境からの防御、免疫系 【授業形態】講義 【到達目標】免疫系を理解する。			
6	【授業単元】血液の循環と調節 【授業形態】講義 【到達目標】心臓の構造、機能を理解する	14		【授業単元】生殖、発生、 【授業形態】講義 【到達目標】生殖、発生、老化を理解する			
7	【授業単元】 血液の循環と調節 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓と血圧の調節を理解する	15		【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】記述試験 【到達目標】後半の人体と構造の機能の理解度を確認			
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】前半の人体の構造と機能の理解度を			【評価について】 中間試験40点 + 定期試験60点			
【特記事項】							

科目名 (英) 学科・専攻	病理学 Pathology	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	安谷屋 均
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2時限
	視能訓練士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
生理学・解剖学・病理学・循環器病等を専門分野として、長きに渡り教鞭や研究を行っている医学博士を有する講師が授業を行う。授業の心構えとして、居眠りしない・私語を慎む・携帯を操作しない等を守って授業に出席すること。							
【到達目標】							
①細胞・組織レベルで病気(疾病)が発生した原因を知る。 ②病気(疾病)がどのようなしくみで人体に影響を及ぼしているかを知る。 ③正常な状態と比較して病気(疾病)によりどのような変化が起きるかを知る。 これらのこと理解・説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 系統看護学講座・専門基礎・病理学:医学書院				【授業外における学習】 講義中で習得した知識を参考にして、新聞やマスコミなどで報道されるさまざまな病気の原因や予防などについて調べてみる。			
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】 病理学で学ぶこと 【授業形態】 講義 【到達目標】 病理学とは? 病気の原因(内因・外因)、公害病・医原病・職業病などについて説明できる。			9	【授業単元】 老化と死 【授業形態】 講義 【到達目標】 個体の老化と老年症候群、老化のメカニズム、個体の死と終末期医療について説明できる。		
					【授業単元】 先天異常と遺伝性疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 遺伝の生物学、先天異常、遺伝子の異常と疾患、選定異常・遺伝性疾患の診断と治療などについて説明できる。		
2	【授業単元】 細胞・組織の損傷と修復、炎症 【授業形態】 講義 【到達目標】 細胞・組織の損傷とその原因、細胞の適応現象、細胞の死細胞と組織の変性、組織の修復、炎症と炎症の分類について説明できる。			10	【授業単元】 感染症 【授業形態】 講義 【到達目標】 感染の成立と感染症の発病、主な感染症、感染症の治療と予防について説明できる。		
					【授業単元】 腫瘍 I 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍の定義、悪性腫瘍と良性腫瘍の違い、悪性腫瘍の広がりと影響(悪性腫瘍の転移など)について説明できる。		
3	【授業単元】 免疫、アレルギー、移植と再生医療 【授業形態】 講義 【到達目標】 免疫と免疫不全、能動免疫と受動免疫、アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療などについて説明できる。			11	【授業単元】 腫瘍 II 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍発生の病理(腫瘍の発生機序や発生因子)、腫瘍の診断(画像診断・内視鏡)、細胞診と組織診などについて説明できる。		
					【授業単元】 腫瘍 III 【授業形態】 講義 【到達目標】 腫瘍マーカー、遺伝子診断、がんの治療(化学療法、照射線療法、外科手術など)について説明できる。		
4	【授業単元】 循環障害 I 【授業形態】 講義 【到達目標】 循環系の概要(血液循環とリンパ循環)、浮腫、充血とうつ出血などについて説明できる。			12	【授業単元】 循環障害 II 【授業形態】 講義 【到達目標】 血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、側副循環による障害、高血圧症、ショックなどについて説明できる。		
					【授業単元】 生活習慣病 【授業形態】 講義 【到達目標】 生活習慣病とは、生活習慣による生体の障害、照射線による生体の障害、化学物質や薬物中毒などについて説明できる。		
5	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 病因、細胞の損傷、免疫と免疫不全、アレルギー、移植感染症、循環障害などの知識が習得されている。			13	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 病理学の全般的な知識が習得されている。		
					【評価方法について】 評価は、筆記試験で行う。中間試験(40点)、定期試験(60点)での合計100点満点とする。評価は学則規定に準ずる。		
6	【授業単元】 代謝障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 脂質代謝障害(肥満や動脈硬化)、タンパク質代謝異常、糖質代謝(糖尿病や糖原病)、痛風、黄疸などについて説明できる。			14	【授業単元】 特記事項		
					【特記事項】		

科目名 (英)	公衆衛生学 (Introduction to Medicine and Public Health)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	脇 雅子			
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 4時限			
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】										
医学博士であり、長年医学部での研究と教育に携わる講師が授業を担当する。現在は滋慶学園並びに医療系専門学校で基礎医学全般を教授。公衆衛生学は暮らしに直接関わる教科であり、目覚ましい変化を遂げている。公衆衛生学の多岐にわたる分野を基礎医学専門の教員が教授することにより、学習・理解できるようにする。										
【到達目標】 身の回りから社会全般に関与する公衆衛生学を学習・理解し視能訓練士として臨床現場で生かせる知識を習得する。										
【使用教科書・教材・参考書】 わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)				【授業外における学習】 毎回復習し、自発的に学習に取り組む						
回				回 授業概要						
1	【授業単元】 公衆衛生とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 1 公衆衛生の概念を理解する			9	【授業単元】 母子保健、学校保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 9 母子保健と今後の課題を理解する、学校保健の施策を理解する					
					【授業単元】 健康と環境、疫学的方法、健康の指標 【授業形態】 講義 【到達目標】 2 疫学とは何かを理解する					
3	【授業単元】 感染症と予防 【授業形態】 講義 【到達目標】 3 感染症の定義・原因・予防を理解する			11	【授業単元】 生活習慣病 【授業形態】 講義 【到達目標】 11 生活習慣病の種類、原因などを理解する					
					【授業単元】 感染症と予防、食品保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 4 食品に関わる感染症を理解する					
5	【授業単元】 生活環境の保全 【授業形態】 講義 【到達目標】 5 現在の地球環境と問題点を理解する			13	【授業単元】 精神保健福祉 【授業形態】 講義 【到達目標】 13 定義と指定難病を理解する。精神保健の課題を理解する					
					【授業単元】 医療・介護の保障制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 6 社会福祉とその必要性を理解する					
7	【授業単元】 地域保健活動 【授業形態】 講義 【到達目標】 7 減るサービスの構造を理解する			15	【授業単元】 産業保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 14 職業病とその対策を理解する					
					【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 15 後半の公衆衛生学の理解度を確認					
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 8 前半の公衆衛生学の理解度を確認			【評価について】 中間試験40点+定期試験60点						
	【特記事項】									

科目名 (英)	カウンセリング実技 (Counseling Skills)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	石田 智子	
		授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 4時限	
【担当教員紹介と授業の学習内容・構成】								
百貨店をはじめさまざまな「接客サービス」の現場を経験している講師が授業を担当する。現在も百貨店での研修に携わっている。接客を通してのコミュニケーション実例を交えた講義、またNLP(コミュニケーション心理学)、コーチングといった手法を取り入れた講義得意とする。コミュニケーションスキルアップ検定に合格するための効果的な学習方法としてグループワーク等を取り入れた授業を行うので、積極的に参加すること。								
【到達目標】								
コミュニケーションスキルアップ検定に合格する 社会人として必要な対人スキルを習得する ホスピタリティマインドとは何かを理解し、行動することができる								
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】				
コミュニケーションスキルアップ検定 滋慶教育科学研究所監修				毎回の授業において小テスト(過去問題)を実施するので、結果を踏まえた振り返りを各自行うこと。あらかじめテキストを読んでおくことが望ましい。				
回	授業概要	回	授業概要					
1	【授業単元】コミュニケーションとは 【授業形態】講義 【到達目標】 コミュニケーションの定義を記述できる コミュニケーションの3領域を列挙できる	9	【授業単元】社会的スキル② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 携帯電話を使用する際の注意点を述べることができる 来客時の案内、見送りの手順を説明できる 応接室でのチェックポイント(上座・下座)を説明できる					
2	【授業単元】基本的対話スキル① 【授業形態】講義 【到達目標】 1対1の会話における4つの心がけを列挙できる ノンバーバルコミュニケーションの重要性を説明できる 相手の話を理解するための方法を列挙できる	10	【授業単元】社会的スキル③・サービスマインド 【授業形態】講義 【到達目標】 訪問する際の心得を述べることができる 文書作成時の注意点を述べることができる サービスマインドの定義を説明することができる					
3	【授業単元】基本的対話スキル② 【授業形態】講義 【到達目標】 グループの基本心構えを列挙できる グループでの会話における心がけを述べることができる	11	【授業単元】コミュニケーション心理学の基礎知識 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 NLP(コミュニケーション心理学)の基礎知識を述べることができる 演習を通して「優位感覚」の対比することができた					
4	【授業単元】自己表現スキル① 【授業形態】講義 【到達目標】 円滑な人間関係の基礎5つを列挙できる 4つの自己主張的表現(アサーションタイプ)の違いを説明できる	12	【授業単元】エニアグラム 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 エニアグラム(9つの性格タイプ)の具体例を述べることができる 自身のコミュニケーションの課題を述べることができます					
5	【授業単元】自己表現スキル② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 仕事の基本3つの役割と心がけについて説明できる プレゼンテーションの評価点3つを列挙できる プレゼンテーション演習に参加する	13	【授業単元】コンセンサスゲーム 【授業形態】演習 【到達目標】 グループワークを通して「合意形成」に至るための工夫について は具体例を挙げて述べることができます					
6	【授業単元】自己表現スキル③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 「感情は行動に影響する」ことを説明できる 「怒りの感情」の上手な付き合い方を説明できる 適切な怒りの伝え方と対処法を述べることができます	14	【授業単元】ホスピタリティマインド・定期試験対策 【授業形態】講義 【到達目標】 ホスピタリティマインドについて自身の体験例を挙げて説明する ことができる 定期試験に向けて自身の課題を列挙することができます					
7	【授業単元】社会的スキル① 【授業形態】講義 【到達目標】 挨拶の使い分け例を説明できる 敬語活用の例題を解くことができる 電話応対の手順を説明できる	15	【授業単元】定期試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 科目において内容の定着度合いを確認することができた状態					
8	【授業単元】中間試験・解答解説 【授業形態】 【到達目標】 7回目までの内容のコミュニケーションスキルアップ検定過去問題に取り組み、理解度を確認する		【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した知識・技術・定着度を確認する。 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学内規定に準ずる。					
【特記事項】								
毎回筆記用具一式及び検定テキストを必ず持参すること 演習時(グループワーク等)は速やかに移動し、積極的に参加すること								

科目名 (英)	視器の解剖生理学 I (Anatomical Physiology of Visual Organs I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	利満 昭子
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 3限目
学科・コース	視能訓練士科						
【授業の学習内容と心構え】 長年大学病院で臨床に携わり複数の養成校の実習生指導にも当たっている現役視能訓練士による眼疾患、眼科検査を理解する上で必要不可欠な解剖を学ぶ							
毎回前回の内容を復習し小テストで確認する							
【到達目標】 眼球はレンズの役目を担っているため透明部分が多い。透明度を保つための仕組みを学ぶ							
【使用教科書・教材・参考書】 現代の眼科学 配布レジュメ				【授業外における学習】			
回	授業概要	回	授業概要				
1	【授業単元】外眼部 前眼部 【授業形態】講義 【到達目標】肉眼で見える範囲 前眼部の名称	9	【授業単元】網膜 【授業形態】講義 【到達目標】光を脳に伝える経路				
2	【授業単元】眼球断面図 【授業形態】講義 【到達目標】正しい図を描ける	10	【授業単元】網膜 視神経 視路 眼底 【授業形態】講義 【到達目標】光を脳に伝える経路				
3	【授業単元】涙液 涙器 外膜(角膜 強膜) 【授業形態】講義 【到達目標】眼表面の役割、仕組	11	【授業単元】外眼筋 【授業形態】講義 【到達目標】眼球運動を理解する				
4	【授業単元】角膜 強膜 眼瞼 【授業形態】講義 【到達目標】眼表面 瞼の開閉 の仕組み	12	【授業単元】眼窩 総腱輪 【授業形態】講義 【到達目標】眼窩先端部 を理解する				
5	【授業単元】房水 隅角 ぶどう膜(毛様体 虹彩 脈絡膜) 【授業形態】講義 【到達目標】血流の多いぶどう膜の役割	13	【授業単元】動脈 静脈 【授業形態】講義 【到達目標】血液循環				
6	【授業単元】水晶体 毛様体 【授業形態】講義 【到達目標】ピント調節の仕組み	14	【授業単元】復習 【授業形態】講義 【到達目標】				
7	【授業単元】中間試験 (筆記) 【授業形態】試験 【到達目標】毎回行う復習のための小テストを見直し試験に臨む	15	【授業単元】定期試験(筆記)、解答解説 【授業形態】 【到達目標】				
8	【授業単元】試験問題解説 硝子体 【授業形態】講義 【到達目標】硝子体の解剖		【評価について】 小テスト10% 筆記試験 中間試験40% 筆記試験 定期試験50% 筆記試験				
【特記事項】前回の内容を復習してくる。毎回小テストを行う							

科目名 (英)	生理光学 I (Physiologic Optics I)	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	露無 陽子						
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3時限						
学科・専攻	視能訓練士科												
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】													
視能訓練士の資格を有し、現場経験と複数の養成所で教育経験のある教員が、視覚生理の基礎的な知識や臨床現場についての講義を行う。 視能訓練士を目指すために、眼科検査、眼科医療機器の操作・測定に必要な光学の知識を習得する授業を行う。 講義授業のため、復習をしっかりして授業に臨んでほしい。													
【到達目標】													
様々な眼科機器による検査を行ううえで、機器の性質、検査データの評価ができる。 視覚器官の光学を学ぶことで、眼科検査(屈折検査、調節検査、眼球運動、両眼視検査)の基礎知識から専門的知識について説明できる。													
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】									
視能学、屈折異常とその矯正 配布レジュメ				必ずレジュメや教科書の該当ページを見直し復習すること。 あらかじめ教科書を読み予習をすることが望ましい。									
回 授業概要				回 授業概要									
1	【授業単元】光の性質について 【授業形態】講義 【到達目標】			9	【授業単元】検影法について 【授業形態】講義 【到達目標】								
	可視光線が電磁波のどこに分類されるか理解できる。 反射の法則、屈折の法則(Snellの法則)を説明できる。 干渉、回折、偏光、散乱を説明できる。				検影法の原理を述べることができる。 検査手順、検査の利点・欠点が説明できる。								
2	【授業単元】レンズの屈折力について 【授業形態】講義 【到達目標】			10	【授業単元】調節について 【授業形態】講義 【到達目標】								
	面の屈折力、レンズの屈折力反射鏡の屈折力を計算できる。 球面レンズ、円柱レンズ、トーリックレンズの働きを説明できる。 4つのレンズの記載方法による分類ができる。				調節力、調節幅の計算ができる。 調節の光学的変化(屈折系の変化、焦点深度、偽調節)を関係付けて説明ができる。								
3	【授業単元】レンズの種類とその働きについて 【授業形態】講義 【到達目標】			11	【授業単元】模型眼について、不同視・不等像視について 【授業形態】講義 【到達目標】								
	レンズの6つの主要点について説明できる。 眼球の主要点の意味と位置を説明できる。				Gullstrand模型眼の主な数値を述べることができる。 眼の軸と角度、Purkinje-Sanson像を説明できる。 レンズの拡大・縮小効果を説明できる。								
4	【授業単元】物体と像の関係について 【授業形態】講義 【到達目標】			12	【授業単元】レンズの収差について 【授業形態】講義 【到達目標】								
	バーゼンスの式からレンズによる物体の位置や、像の位置が説明できる。 実像と虚像について説明できる。				ザイデルの5収差を説明できる。 2種類の色収差を説明できる。 波面収差を説明できる。								
5	【授業単元】物体と像の関係について 【授業形態】講義 【到達目標】			13	【授業単元】眼鏡・コンタクトレンズ・眼内レンズについて 【授業形態】講義 【到達目標】								
	物体と像の作図ができる。 物体の倍率の計算ができる。 拡大鏡の倍率や度数を計算して求めることができる。				眼鏡の処方に必要な検査について説明できる。 眼内レンズの決定に必要な検査を列挙できる。 屈折矯正手術の説明ができる。								
6	【授業単元】屈折異常とその矯正について 【授業形態】講義 【到達目標】			14	【授業単元】コンタクトレンズについて 【授業形態】講義 【到達目標】								
	屈折異常を説明できる。 屈折矯正方法の違いによる矯正レンズ度数を計算できる。 眼鏡レンズからコンタクトレンズ度数を求めることができる。				コンタクトレンズの分類について説明できる。 涙液レンズの効果の計算ができる。								
7	【授業単元】プリズムについて 【授業形態】講義 【到達目標】			15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】								
	プリズム偏角の表し方(弧度法と△)の違いが分かる。 レンズのプリズム効果の計算ができる。				前期の授業内容の振り返りを行う。								
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は、中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。									
	授業前半の振り返りを行う。												
【特記事項】													
毎授業において、教科書や配布レジュメを持参すること。													

科目名 (英)	生理光学実習 I	必修選択 授業形態	必修 実習	年次 総時間 (単位)	1年 60時間 (2)	担当教員 開講区分	利満 昭子・越後貴 滋子 太田 幸代・小川 久実 後期					
	(Practical Training in Physiologic Optics I)											
	学科・専攻 視能訓練士科						水曜日 1~2時限					
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】												
視能訓練士として臨床現場で経験を積んだ現役の視能訓練士複数名により、チームごとに分かれ指導を行う。 臨床の現場で求められる検査の理論、技術、また医療従事者と患者間のコミュニケーションの取り方を学ぶ。 疾患の診断・治療に与える検査結果の重要性を理解し、責任ある検査を出せる視能訓練士を目指す。 チームごとの実習のため遅刻や欠席がないよう、時間・体調管理を怠らず、配布されたレジュメの見直しなど、積極的に学ぶ姿勢を身に付ける。												
【到達目標】												
眼科検査の基本である視力検査に関する検査を習得する。 検査内容を正しく記載し、検査結果の問題点に気付くことができる。 臨時実習に向けて眼科外来に立つためのマナー、課される実習課題やレポートなど提出期限を守ることができる。												
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】								
眼科検査ガイド、視能学、視能矯正学、配布レジュメ				配布されたレジュメを読み返す。 検査ごとのファイルを作成し、数多くの検査について調べやすい工夫をする								
回 授業概要				回 授業概要								
1・2	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(クロスシリンダー使用) ③レンズメーター(単焦点)・三田式万能距離計 ④近視視力・調節力	17・18	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、演習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計								
	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(クロスシリンダー使用) ③レンズメーター(単焦点)・三田式万能距離計 ④近視視力・調節力			【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計								
3・4	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(クロスシリンダー使用) ③レンズメーター(単焦点)・三田式万能距離計 ④近視視力・調節力	19・20	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計								
	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(クロスシリンダー使用) ③レンズメーター(単焦点)・三田式万能距離計 ④近視視力・調節力			【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計								
5・6	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(クロスシリンダー使用) ③レンズメーター(単焦点)・三田式万能距離計 ④近視視力・調節力	21・22	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計	【授業単元】 3グループに分かれ、講義、実習を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 ①他覚的屈折検査、眼圧検査 ②自覚的屈折検査(乱視表使用) ③レンズメーター(累進) ④検影法 ⑤石原式近点計								
	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。			【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
7・8	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	23・24	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。			【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
9・10	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	25・26	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。			【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
11・12	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。 中間試験に向けての小テスト(筆記)を行う。	27・28	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。 定期試験に向けての小テスト(筆記)を行う。	【授業単元】 3グループに分かれ、実習課題を行う、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 病院の検査室を想定し、患者とのコミュニケーションをとりながらの実技を身に付ける。 検査の手順を覚え結果を出し、カルテの記載ができる。								
	【授業単元】 3グループに分かれ、実習、実技チェック、小テスト 【授業形態】 実習 【到達目標】 定期試験の実技試験を想定し、個別に実技チェックを行う。 中間試験に向けての小テスト(筆記)を行う。			【授業単元】 定期試験(筆記+実技)、解説 【授業形態】 【到達目標】 1年生最後の臨時実習に出るための実習生としての知識・技術とともに身なり・マナーを身に付ける。								
13・14	【授業単元】 中間試験(筆記)、実技チェック、解説 【授業形態】 実習 【到達目標】 定期試験の実技試験を想定し、個別に実技チェックを行う。	29・30	【評価方法について】 中間試験(筆記のみ) 40% 定期試験(筆記+実技) 60% 筆記 60% 実技 40% 課題提出が提出期限に間に合わない場合実技試験から減点とする	【評価方法について】 中間試験(筆記のみ) 40% 定期試験(筆記+実技) 60% 筆記 60% 実技 40% 課題提出が提出期限に間に合わない場合実技試験から減点とする								
	【特記事項】 実習は検者、被検者のペアで行うため、遅刻・欠席のないように。 学んだ検査のレジュメは実習中、常に携帯すること。											

科目名 (英) 学科・専攻	プロ養成講座Ⅰ (Carrer Development Ⅰ) 視能訓練士科	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	鈴木まゆ
		授業形態	講義	総時間(単位)	30時間(2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
視能訓練士の資格を有する現場経験のある教員が、視能訓練士を目指すにあたり必要な心構えを教える。また、本校での学校生活をスムーズに送るために、学則の確認や国家試験受験時でも守るべき試験の受験マナーの確認などを実施する。							
【到達目標】							
①学則に従った行動をとることを学び、自分に適した学び方を示すことができる。 ②視能訓練士の歴史を知り目指す将来像を明確にするとともに、1年後どうありたいかを示すことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 学生便覧、視能学、眼科検査ガイド(11~14回で使用)				【授業外における学習】 数回宿題を出すため、決められた期間までに提出すること。			
回 授業概要				回 授業概要			
1	【授業単元】オリエンテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 プロ養成講座の目的を共有する。 校内を見て回り、職員室の入室マナーを遵守できるようになる。			9	【授業単元】視能訓練士の歴史 【授業形態】講義 【到達目標】 視能矯正の始まりを説明することができる。 斜視訓練の歴史を説明することができる。 世界の歴史と日本の歴史について説明することができる。		
2	【授業単元】学則の理解 【授業形態】講義 【到達目標】 学生生活をスムーズに送るために学生便覧の学則の読み合わせを行う。 図書室の利用方法を説明することができる。			10	【授業単元】視能訓練士の役割 【授業形態】講義 【到達目標】 視能訓練士の業務について、視能訓練士法を読む。 視能訓練士に与えられた役割を説明することができる。		
3	【授業単元】視能訓練士科の3年間 【授業形態】講義 【到達目標】 視能訓練士科3年間の流れ(スケジュール)を読み合わせる。 今やるべきことをグループで話し合い、示すことができる。			11	【授業単元】実習前準備 【授業形態】講義 【到達目標】 実習室のルールや必要なものを説明することができる。		
4	【授業単元】チーム医療を考える 【授業形態】講義 【到達目標】 コミュニケーションの必要性を述べることができる。 チーム医療とは何かを自分の言葉で説明することができる。			12	【授業単元】先輩の実習見学 【授業形態】講義 【到達目標】 先輩の実習風景を見学する。 実習室に入るイメージを固め、目標を話し合うことができる。		
5	【授業単元】勉強方法を考える① 【授業形態】講義 【到達目標】 認知特性テストを行う。 自分の認知特性を知る。			13	【授業単元】先輩の実習見学 【授業形態】講義 【到達目標】 先輩の実習風景を見学する。 1年後を知ることで、今できることを見つけることができる。		
6	【授業単元】勉強方法を考える② 【授業形態】講義 【到達目標】 認知特性テストを行う。 自分の認知特性を知る。 一人ひとりに合った勉強方法について述べることができる。			14	【授業単元】先輩の実習見学 【授業形態】講義 【到達目標】 先輩の実習風景を見学する。 2年生になってから使用する実習機器を見ることで、先の自分の姿をイメージでき、目標をより明確に示すことができる。		
7	【授業単元】勉強方法を知る 【授業形態】講義 【到達目標】 自分の勉強方法を振り返り、自分に合った方法を示すことができる。 どのような活用術があるかを知り、活用できる。 試験のルールについて知り、守ることができる。			15	【授業単元】定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 前期の授業内容の振り返りを行う。		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】 授業前半の振り返りを行う。				【評価方法について】 評価は筆記試験と課題提出で行う。 筆記試験は中間試験40点、定期試験60点(課題の提出も含む)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】 担任授業の時間となるため、シラバスに記載してあること以外の諸連絡や授業アンケートなどを行う場合がある。							